

空き家の利用を考えてみませんか？

空き家活用事業の紹介

問 企画振興課 地域活力創出係 内線2212



人口減少や住宅、建築物の老朽化、社会的ニーズの変化等に伴い、空き家は全国的に増加し社会問題化しています。

今回は、町が実施する空き家活用事業の取組状況や、制度を利用した方の声を紹介します。

増加する空き家

町では、平成27年と令和2年に空き家調査を実施しました。空き家の数は、平成27年の調査で514棟（町全体の空き家率9・1%）、令和2年の調査で857棟（町全体の空き家率14・7%）となっています。人口減少に伴い空き家の数は増加しており、今後もその数は増えていくことが予想されます。

空き家バンクの創設

町は、平成29年3月から空き家バンクの運用を開始しました。空き家バンクは、空き家の所有者等が町に登録を申請し、町に登録された空き家の物件情報をホームページ等で公開することで、空き家の賃貸や購入に繋げようとする取り組みです。

【利用制限の緩和】

これまでに町では、空き家の所有者等が利用しやすい空き家バンクにするため、利用制限を緩和してきました。以前は、空き家バンクに登録するには、空き家にある家財等を全て処分する必要があるでしたが、登録する上で大きな負担となっていたので、現在では、家財等を残したままでも空き家バンクに登録することができますようになりました。さらに、交渉成立後に利用できる、家財等の処分費用に対する補助制度も創設し、処分に係る金銭的負担も少なくしています。

これからも空き家に長く住んでほしい

祖母が住んでいた家を令和2年に空き家バンクに登録しました。登録してから1ヵ月程で借り手が見つかったので、今は賃貸で空き家を貸し出しています。

誰も住んでいないときは、年に2、3回程庭の草を刈ったり、木を切ったりして空き家の管理をしており、草刈りだけでもかなりの重労働でした。空き家を貸し出してから、これらの作業が必要ではなくなったので、負担がなくなり

助かっています。

入居してくれた方は、明るい人柄で、良い人に入居してもらって良かったです。できる限り長く住んでほしいと思っています。

人口が減っている鬼北町では、空き家も増えているので、貸したい、売りたいと思う人はまだまだいると思います。貸す人と借りる人、もしくは売ると買う人を上手く繋いで、若い人が増えていてくれたらいいですね。



高田 正保さん